

## 各種アンケート集約結果（2019年実施分）

### 1. 将来展望に必要な調査・分析

#### （1）調査概要

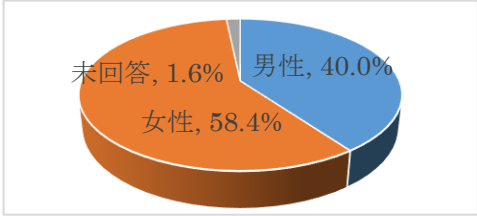
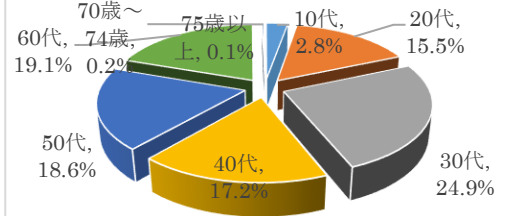
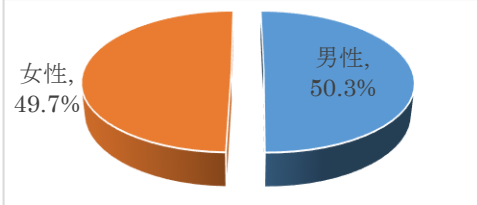
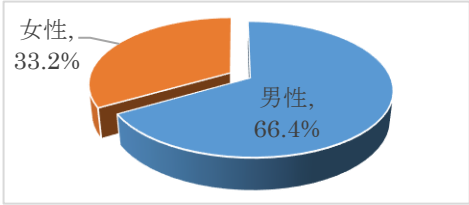
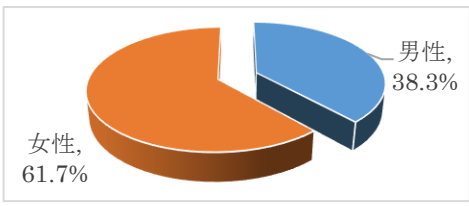
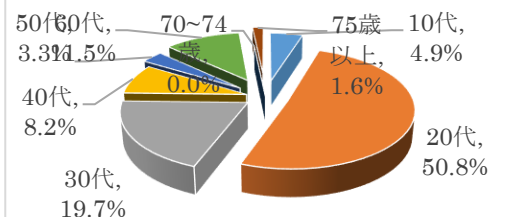
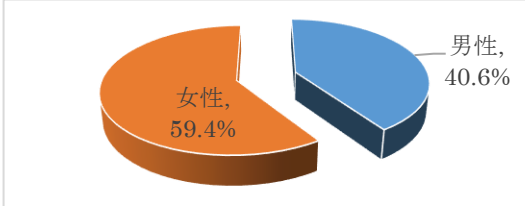
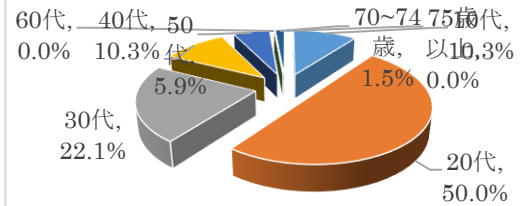
将来展望に必要な調査として、以下の調査を実施しました。

#### 調査概要（その1）

調査名	調査対象	主な調査内容
市民アンケート  うち、「結婚、出産、子育てに関するアンケート」	18歳以上の市内居住者 3,360人 ・回答数：980人 ・回収率：29.2%	・飯塚市の印象について ・日常の行動範囲について ・飯塚市のまちづくりについて ・飯塚市の将来について
	市民アンケート調査の対象者のうち18歳～39歳の方 960人 ・回答数：207人 ・回収率：21.6%	・結婚観について ・出産や子育てについて
高校生アンケート	市内にある公立・私立高校 4校 1,070人 ・回答数：1,070人 ・回収率：100%	・飯塚市の印象について ・今後の進路等について ・今後の居住等について
大学生アンケート	市内にある大学 3大学 281人 ・回答数：274人 ・回収率：97.5%	・飯塚市の印象について ・今後の就職等について ・今後の居住等について
転出者アンケート	2019（平成31）年3月から5月に市外へ転出（転出届を提出）した方 850人 ・回答数：60人 ・回収率 7.1%	・転出時のことについて ・飯塚市の印象について
転入者アンケート	2019（平成31）年3月から5月に市内へ転入（転入届を提出）した方 850人 ・回答数：69人 ・回収率：8.1%	・転入時のことについて ・飯塚市の印象について

※アンケート調査の実施時期は2019年3月から7月

表 調査概要（その2）

調査名	回答者の性別	回答者の年齢
市民アンケート （「結婚、出産、子育てに関するアンケート」を含む）		
高校生アンケート		(未調査)
大学生アンケート		(未調査)
転出者アンケート		
転入者アンケート		

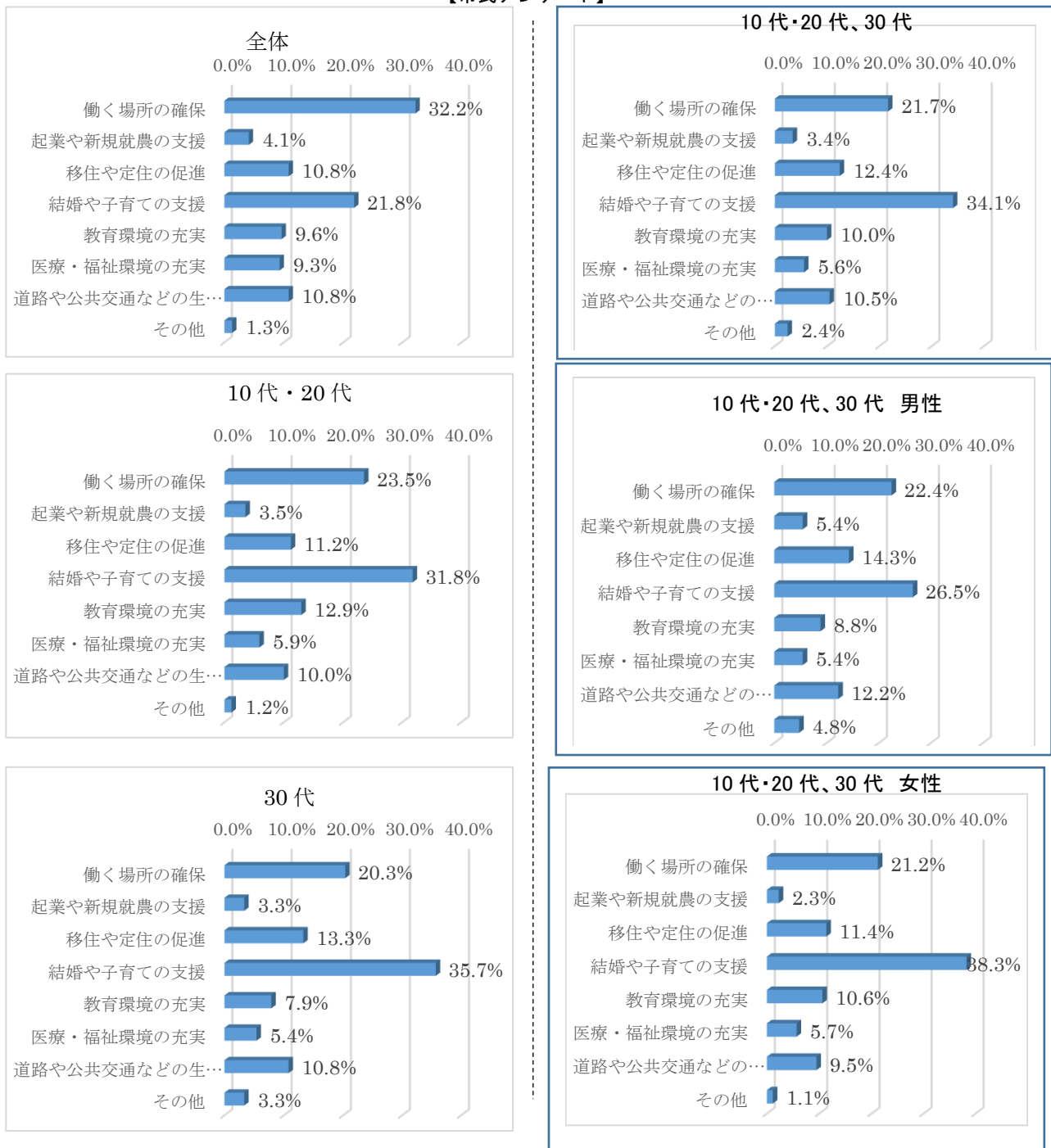
※グラフ中の「n」は各回答数のうちの、有効回答数を示

## (2) 人口減少対策として望まれている取り組み

- ・「働く場の確保」が32.2%で最も高い。ついで「結婚や子育ての支援」が高い。
- ・年齢別にみると、10代・20代、30代で「結婚や子育ての支援」が高く、10代・20代男性以外では「働く場の確保」を上回り、最も高い。
- ・全体と比較して10代・20代、30代で『働く場所の確保』が低い理由の一つとして、就業場所を確保した方が本市へ住み続けており、それ以外の方は既に転出していることが考えられる。

図 人口減少に対して飯塚市が力を入れるべき対策（単一回答）

【市民アンケート】



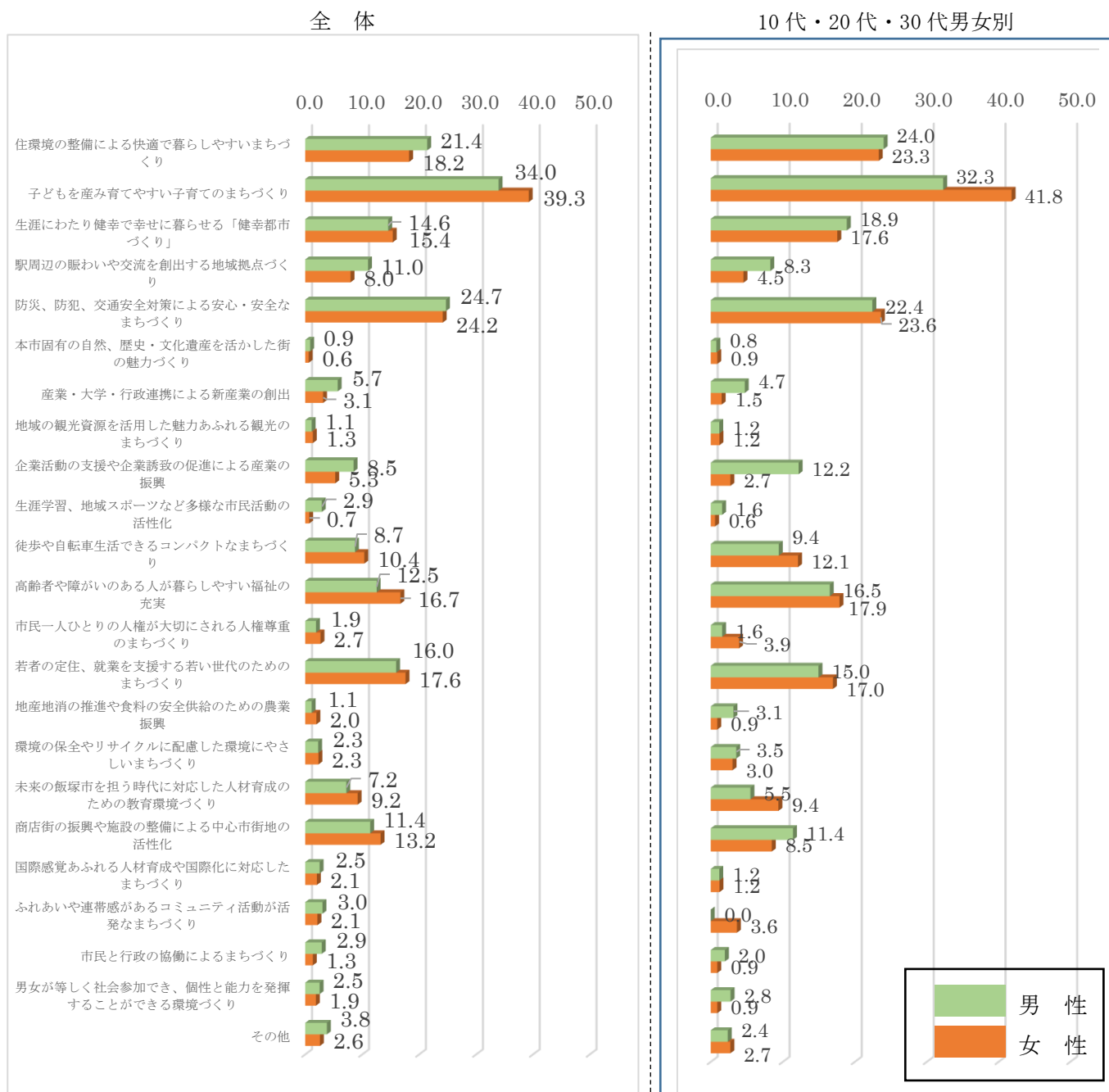
### (3) 住民の結婚・出産・子育てに関する意識や希望の調査

#### ①取り組みの重要度

・住民の結婚・出産・子育てに関する意識や希望として、飯塚市の取り組みの今後への期待「重要度」をみると、「子どもを産み育てやすい子育てのまちづくり」が最も高い。

図 取り組みの重要度

【市民アンケート】

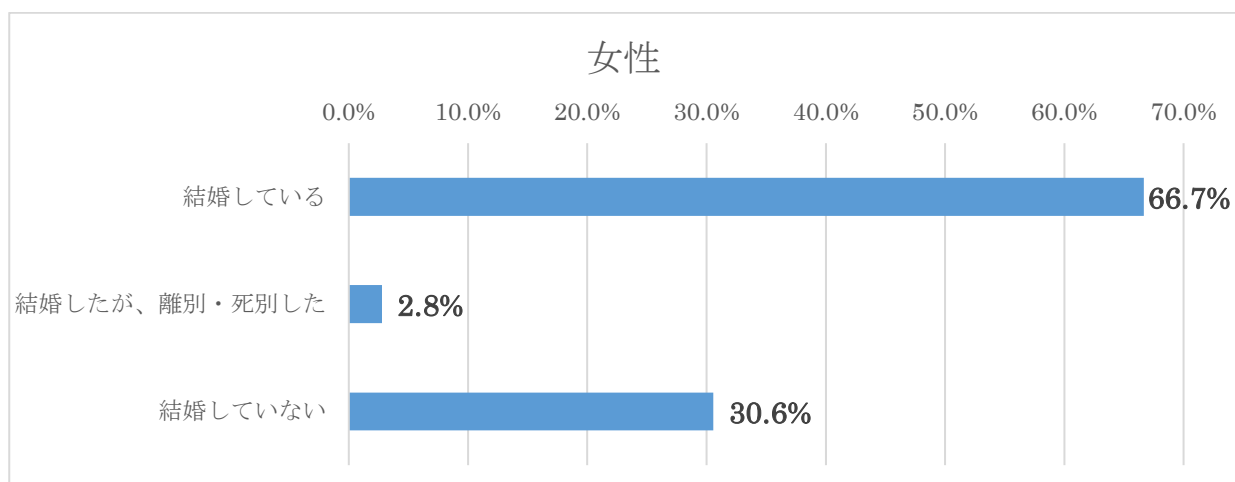
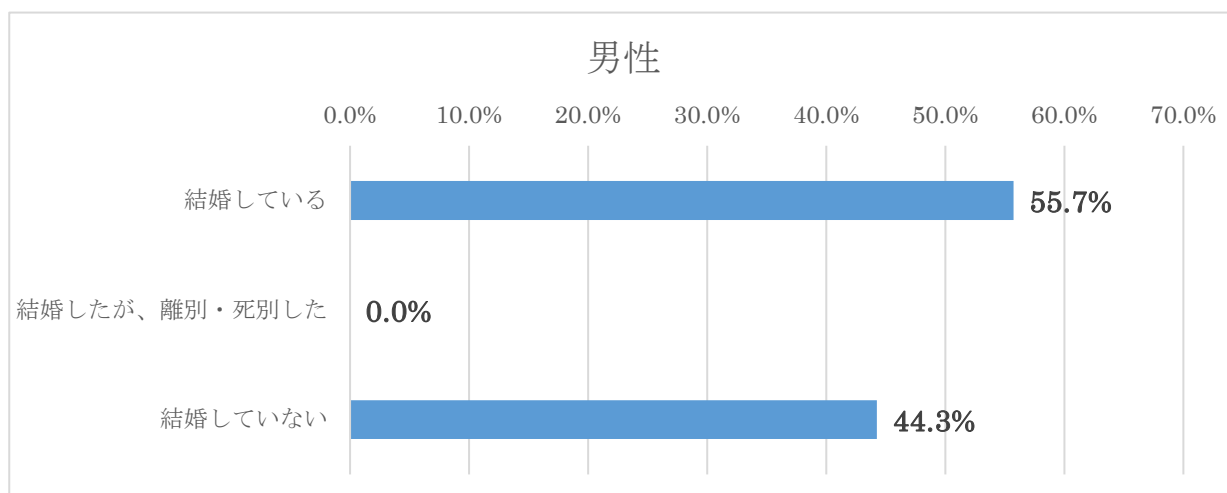
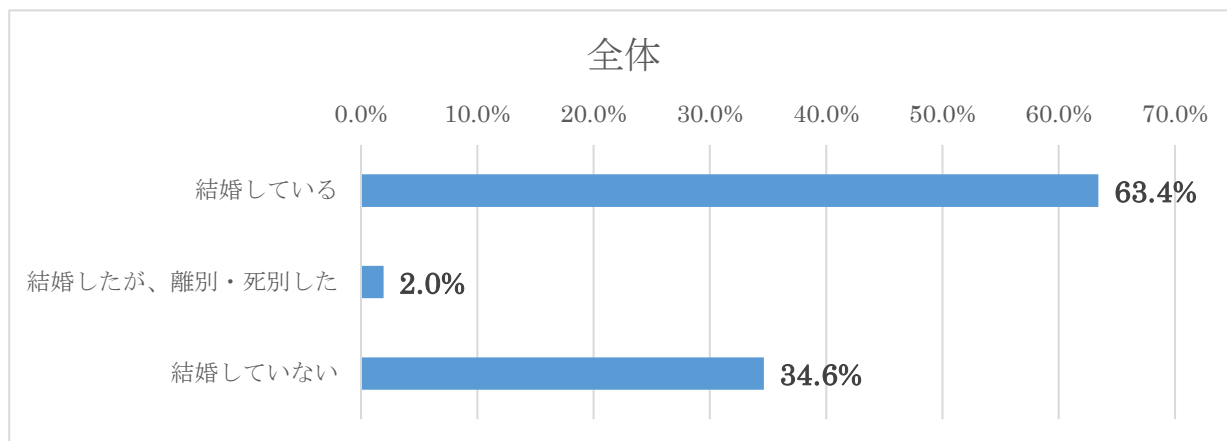


※上記グラフの数値は、項目ごとに、その重要度を、高い：5、やや高い：4、ふつう：3、やや低い：2、低い：1の5段階で評価していただいた結果を平均化した数値である。

## ②結婚等について

・結婚していない人が全体で34.6%を占める。特に男性は44.3%が結婚していない。女性で結婚していない人は30.6%となっている。

図 結婚の状況（単一回答）  
【結婚、出産、子育てに関するアンケート】



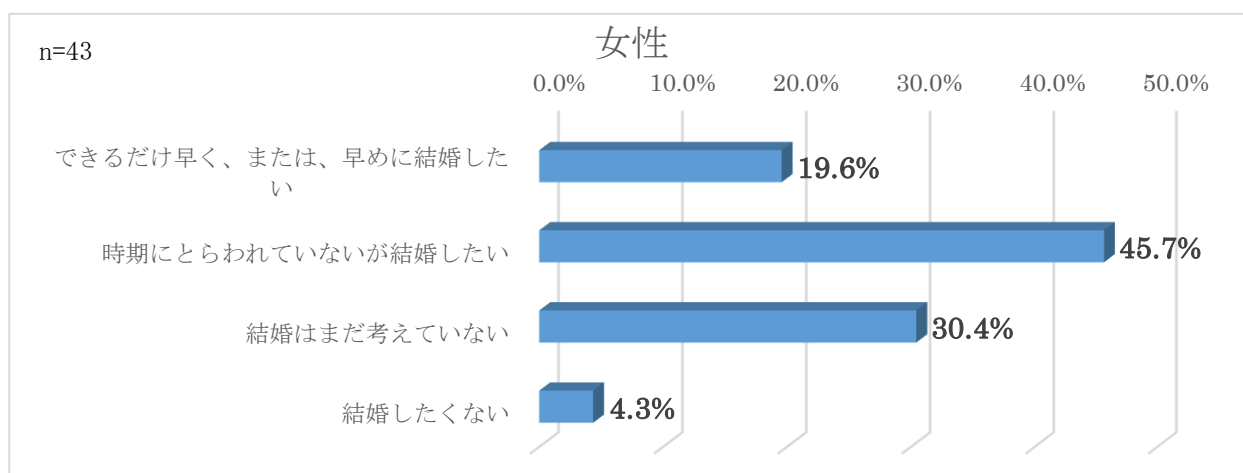
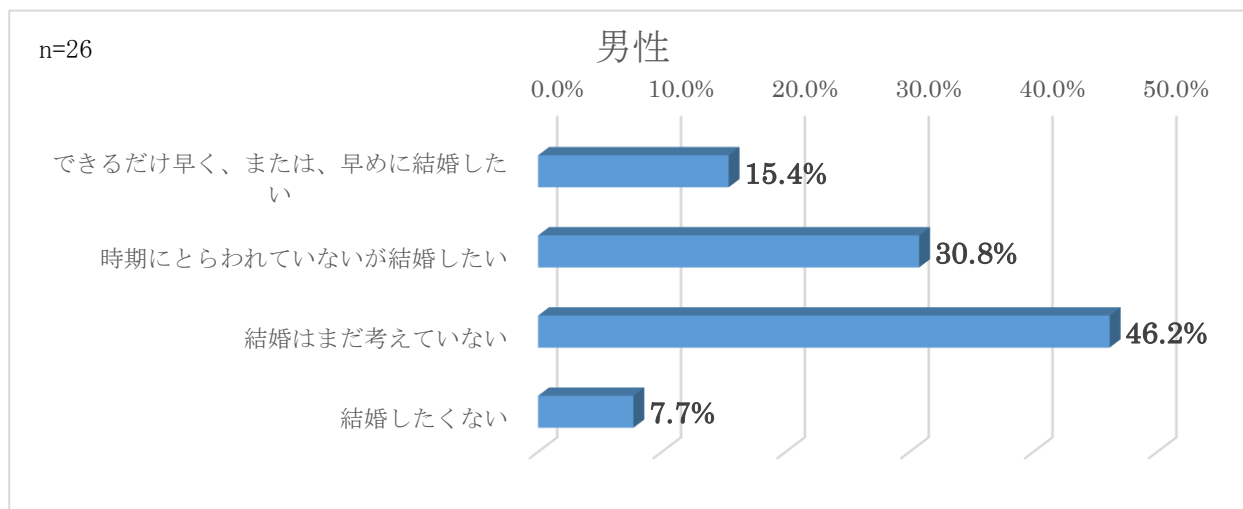
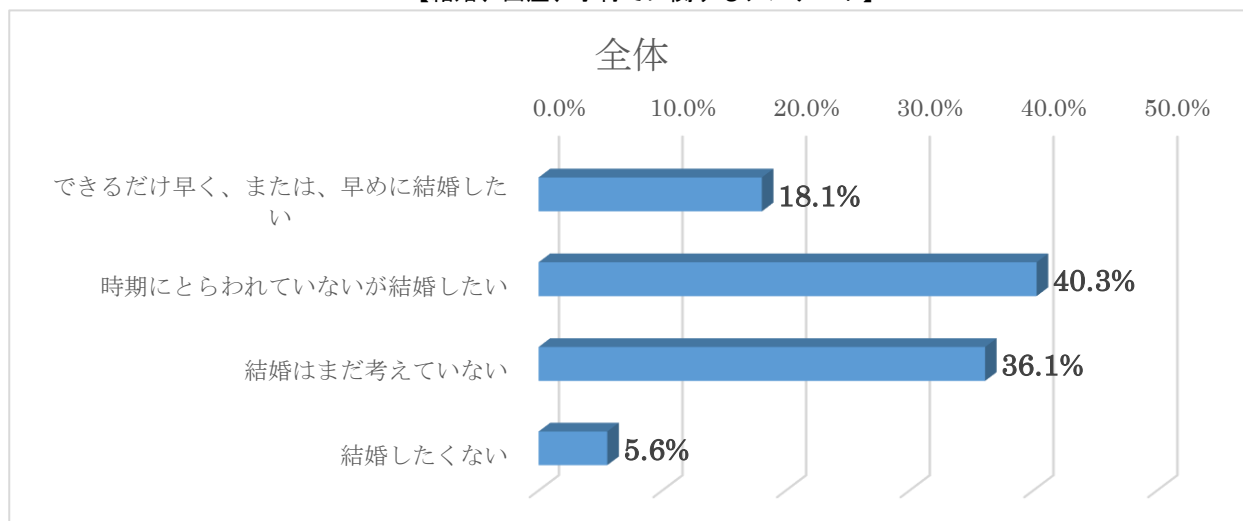
※結婚、出産、子育てに関するアンケートの対象者は、市民アンケート対象者のうち、18～39歳の方。

### ③結婚に対する考え

- ・全体では、「時期にとらわれていないが結婚したい」が40.3%で最も高く、「できるだけ早く、または、早めに結婚したい（18.1%）」を合すると、既に「結婚したい」と考えている人は58.4%となっている。一方で、「結婚はまだ考えていない」が36.1%となっている。
- ・性別で見ると、男性は「結婚はまだ考えていない」の割合が最も高い46.2%となっている。

図 結婚に対する考え（単一回答）

【結婚、出産、子育てに関するアンケート】



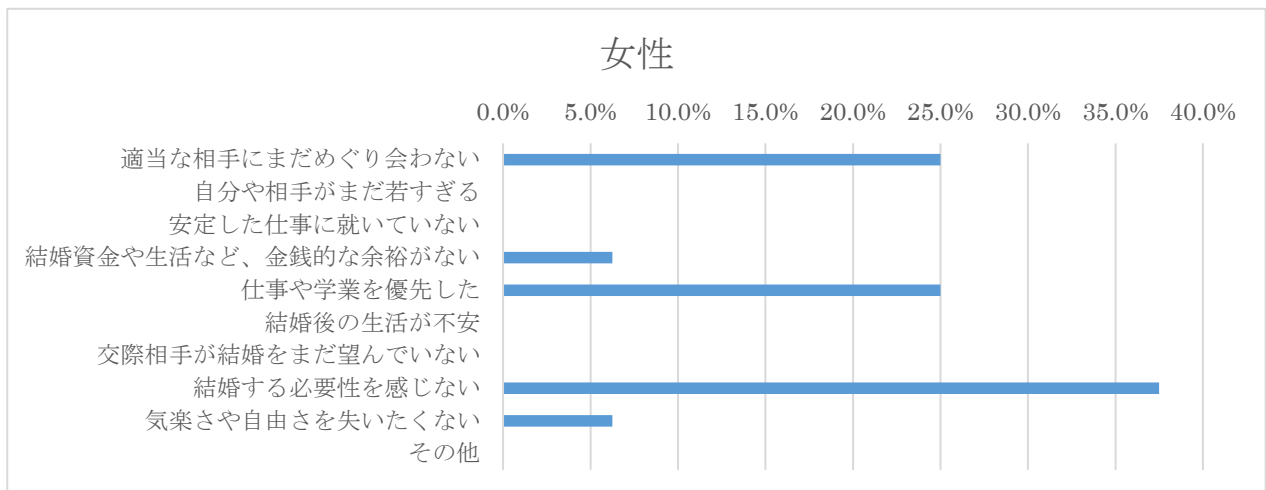
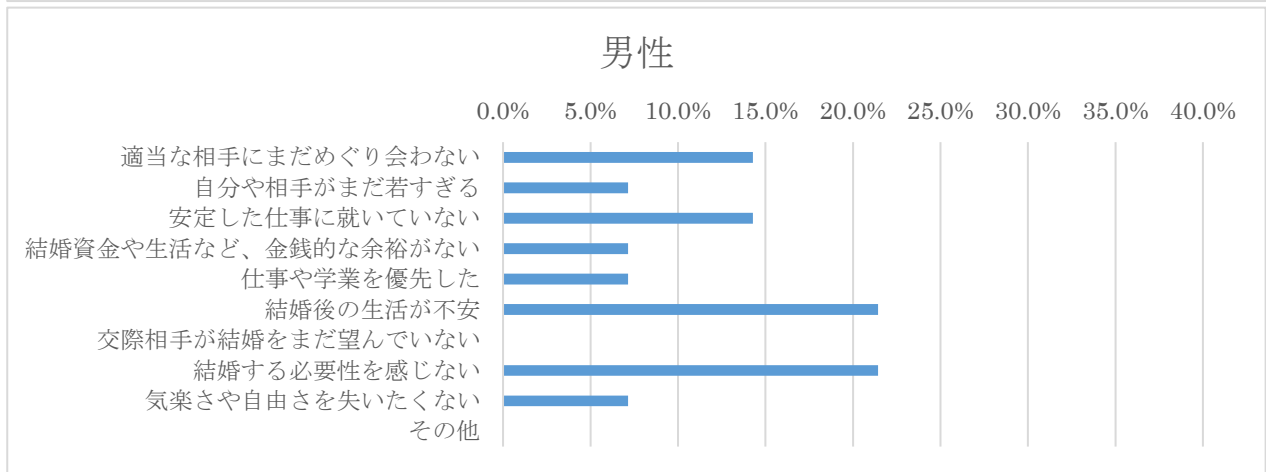
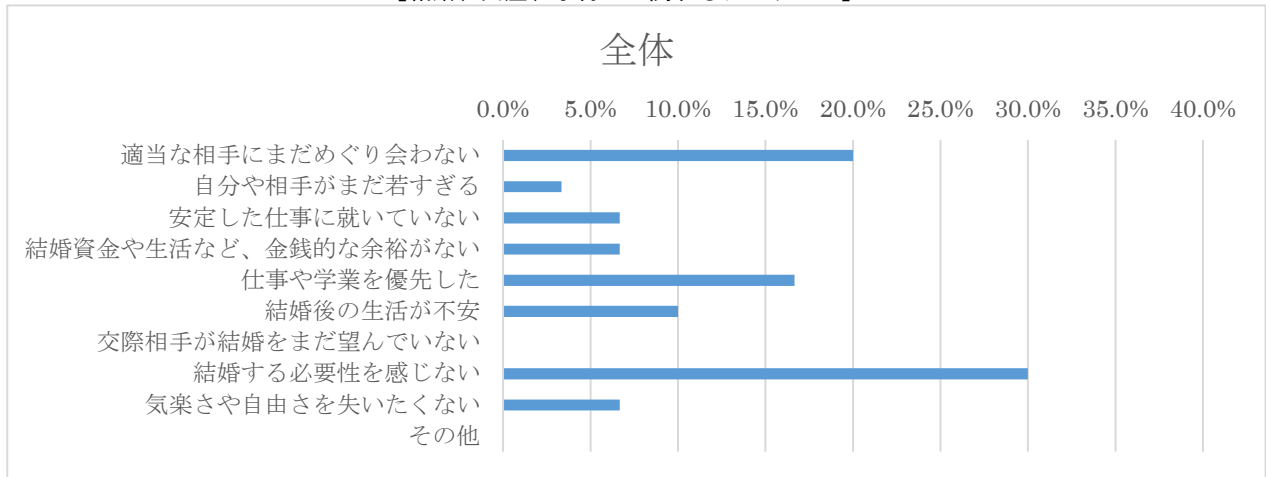
※結婚、出産、子育てに関するアンケートの対象者は、市民アンケート対象者のうち、18～39歳の方。

#### ④結婚しない理由

- ・全体では「結婚する必要性を感じない」が30.0%で最も高い。
- ・男性では「結婚後の生活が不安」と「結婚する必要性を感じない」が最も高く、ついで「適切な相手にまだめぐり合わない」「安定した仕事に就いていない」の順となっている。
- ・女性では「結婚する必要性を感じない」が最も高く、ついで「適切な相手にまだめぐり合わない」と「仕事や学業を優先したい」となっている。

図 結婚しない理由（単一回答）

【結婚、出産、子育てに関するアンケート】



## ⑤子どもについて

- ・「ほしいと思っている」が53.2%となっている。
- ・理想とする子どもの人数は「2人」が51.3%、「3人」が38.7%であるのに対し、最終的に予定している子どもの人数は「2人」が60.2%、「3人」が28.0%となっている。

図 子どもの希望（単一回答）  
【結婚、出産、子育てに関するアンケート】

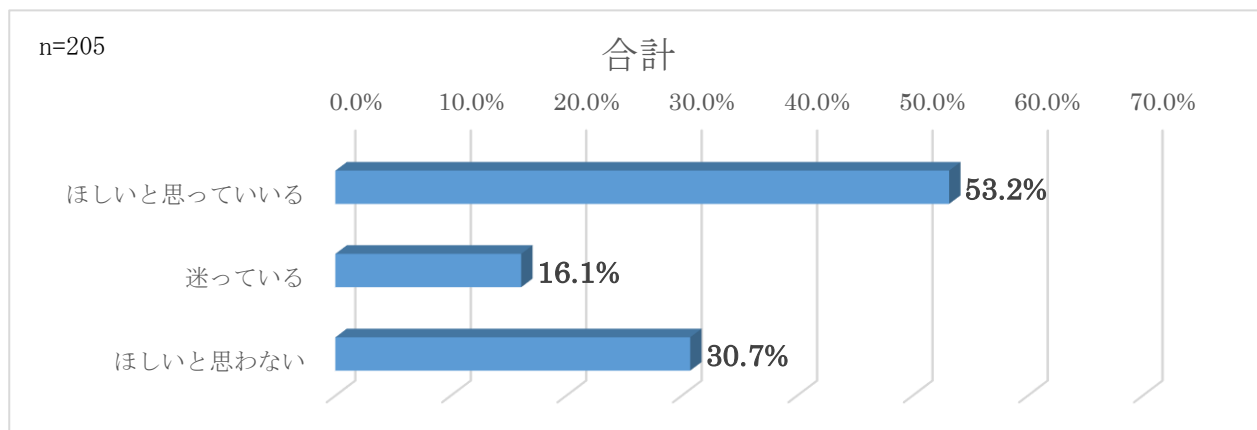


図 理想とする子どもの人数（単一回答）  
【結婚、出産、子育てに関するアンケート】

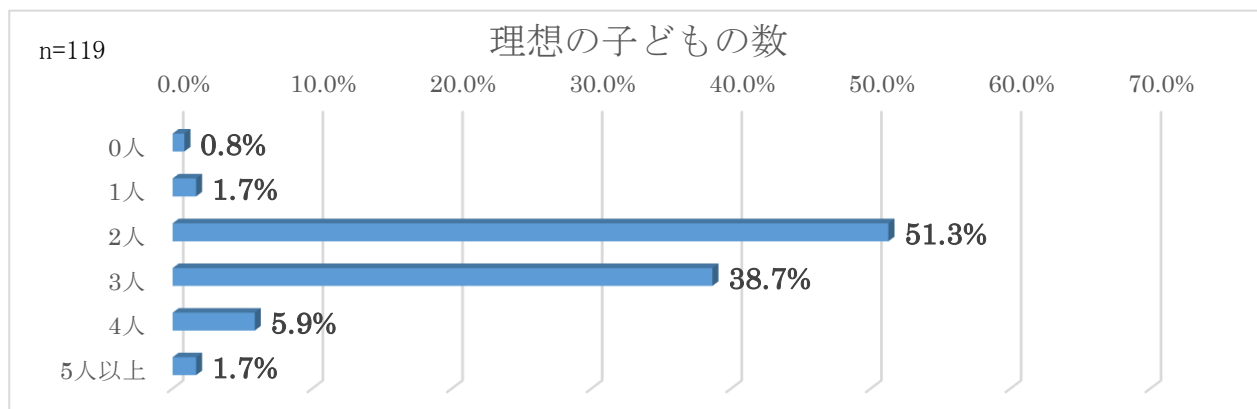
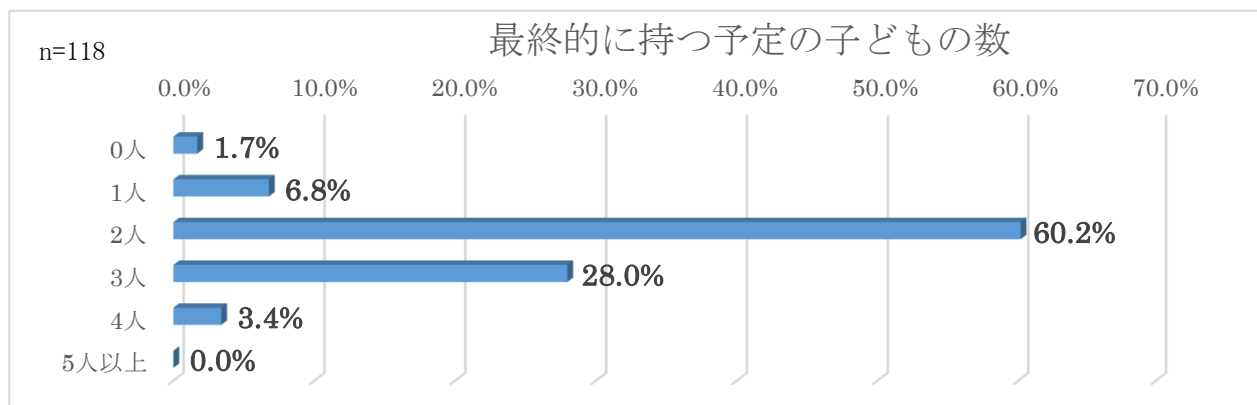


図 最終的に予定している子どもの人数（単一回答）  
【結婚、出産、子育てに関するアンケート】



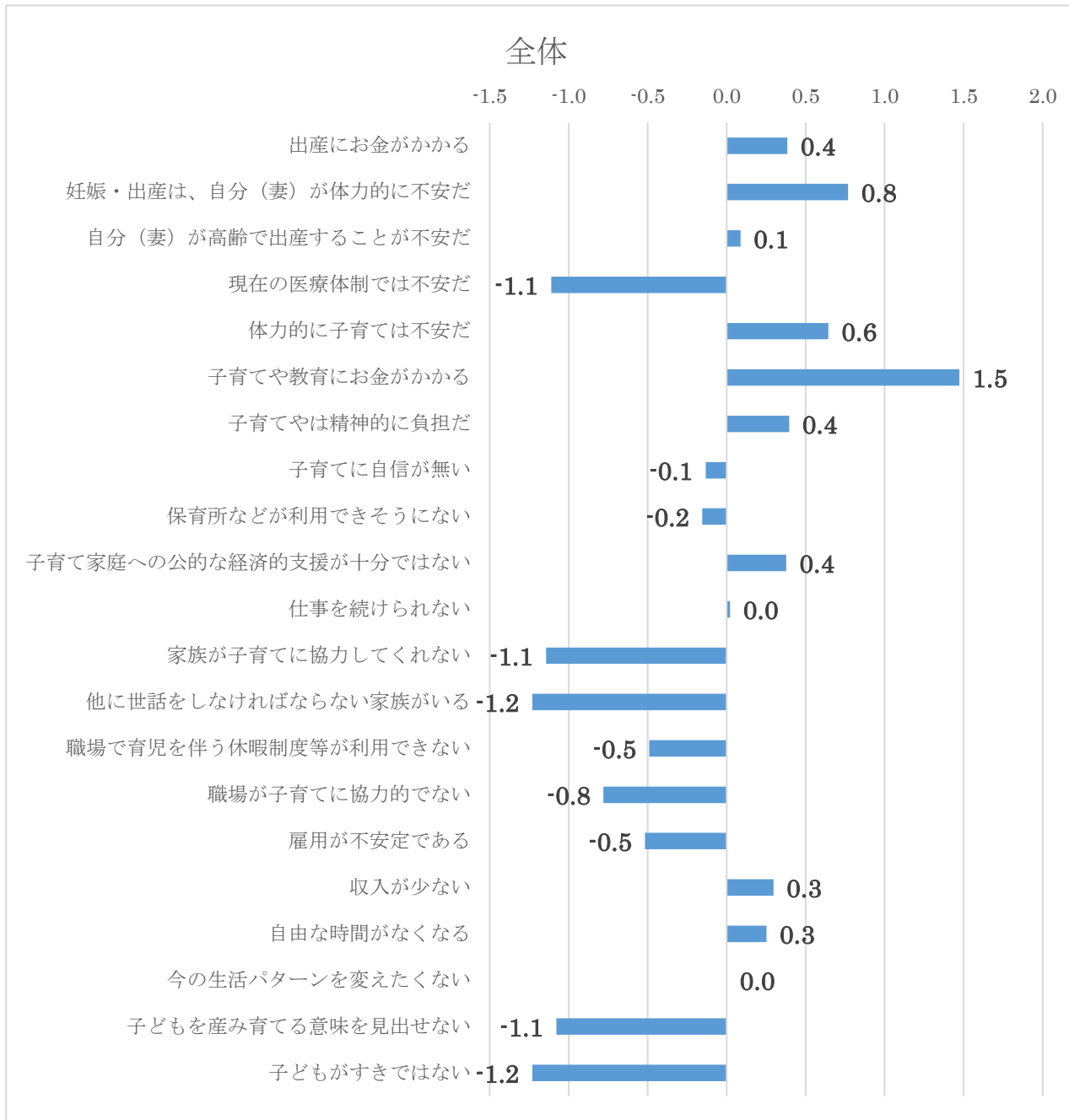


## ⑥子どもをつくることに迷っている・ほしいと思わない理由

- ・「子育てや教育にお金がかかる」が最も高く、ついで「妊娠・出産は自分（妻）が体力的に不安だ」の順となっている。
- ・「妊娠・出産は自分（妻）が体力的に不安だ」を選択した方の多くが、結婚及び妊娠・出産を想定している年齢が高齢化している可能性がある。

図 子どもをつくることに迷っている・欲しいと思わない理由

【結婚、出産、子育てに関するアンケート】



※結婚、出産、子育てに関するアンケートの対象者は、市民アンケート対象者のうち、18～39歳の方。  
 ※グラフの数値は、そう思う、どちらかといえばそう思う、どちらかといえばそう思わない、そう思わないの4段階で評価していただいた結果をポイント換算（そう思う：2、どちらかといえばそう思う：1、どちらかといえばそう思わない：-1、そう思わない：-2）し平均化した数値である。

## (4) 地方移住の希望に関する調査

### ① 転出者に対するアンケート調査

- ・ 転出先は「福岡市」「福岡県内（福岡市、嘉麻市以外）」が26.8%で最も多く、ついで「九州各県（福岡県以外）」の順となっている。
- ・ 転出理由は「仕事の都合」が63.0%で最も多く、ついで「結婚のため」が13.0%となっている。
- ・ 飯塚市への居住意向については「住みたいと思う」が60.4%で最も多い。

図 転出先（単一回答）

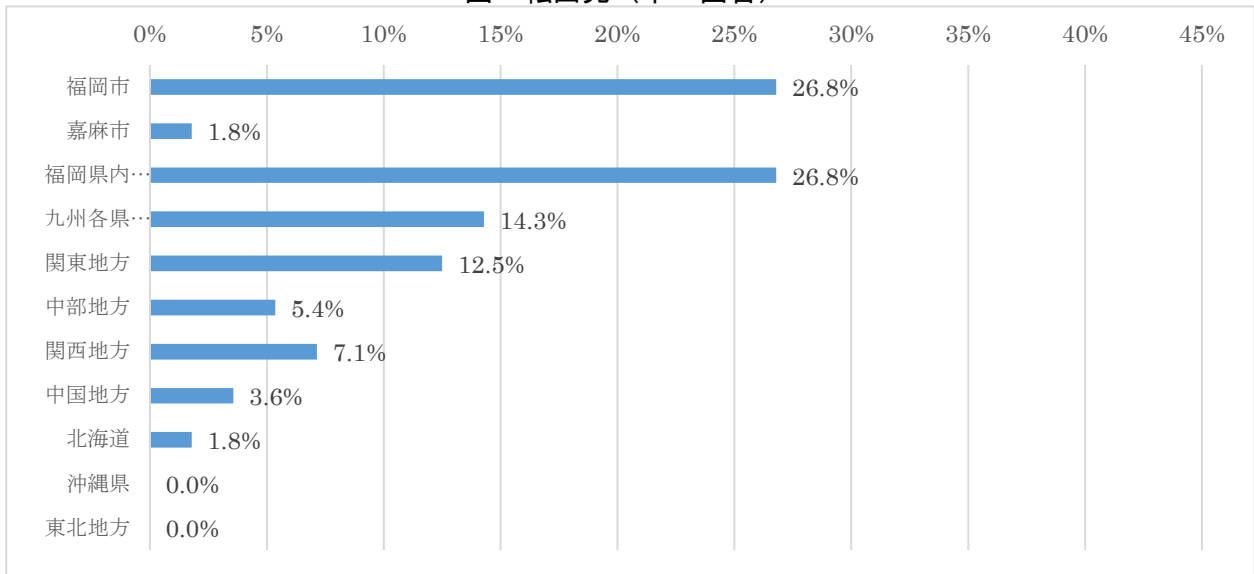


図 転出理由（単一回答）

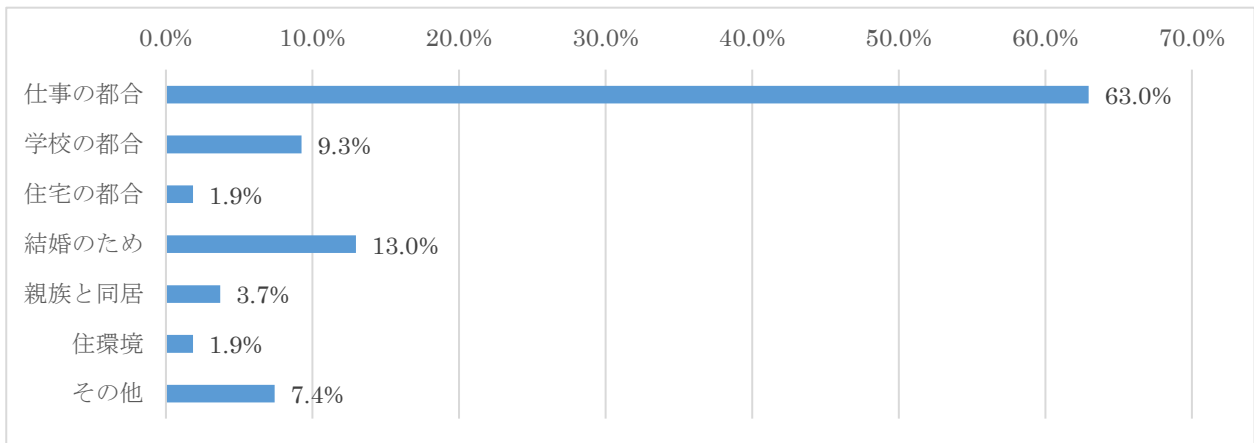
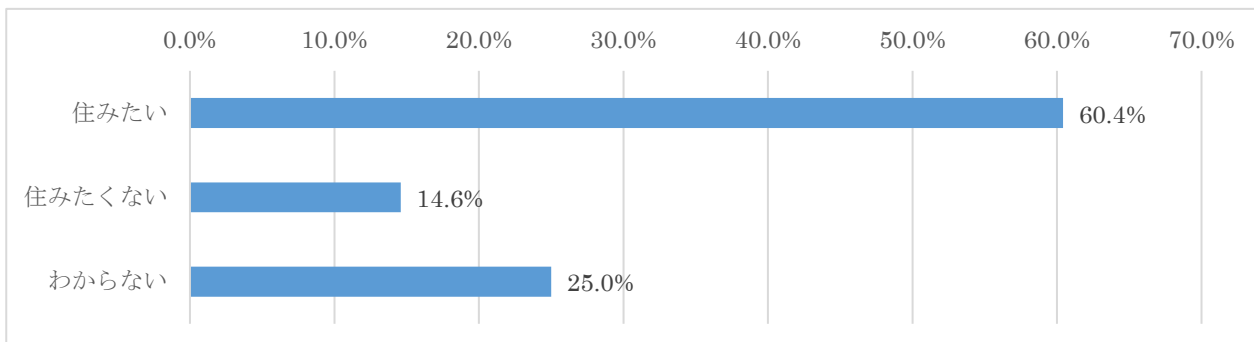


図 居住意向（単一回答）



## ②転入者に対するアンケート調査

- ・転入前の居住地は「福岡県内（福岡市、嘉麻市、田川市・田川郡以外）」が33.3%で最も多く、ついで「福岡市」の順となっている。
- ・転入理由は「仕事の都合」が62.1%で最も多く、ついで「学校の都合」が13.6%となっている。

図 転入前の居住地（単一回答）

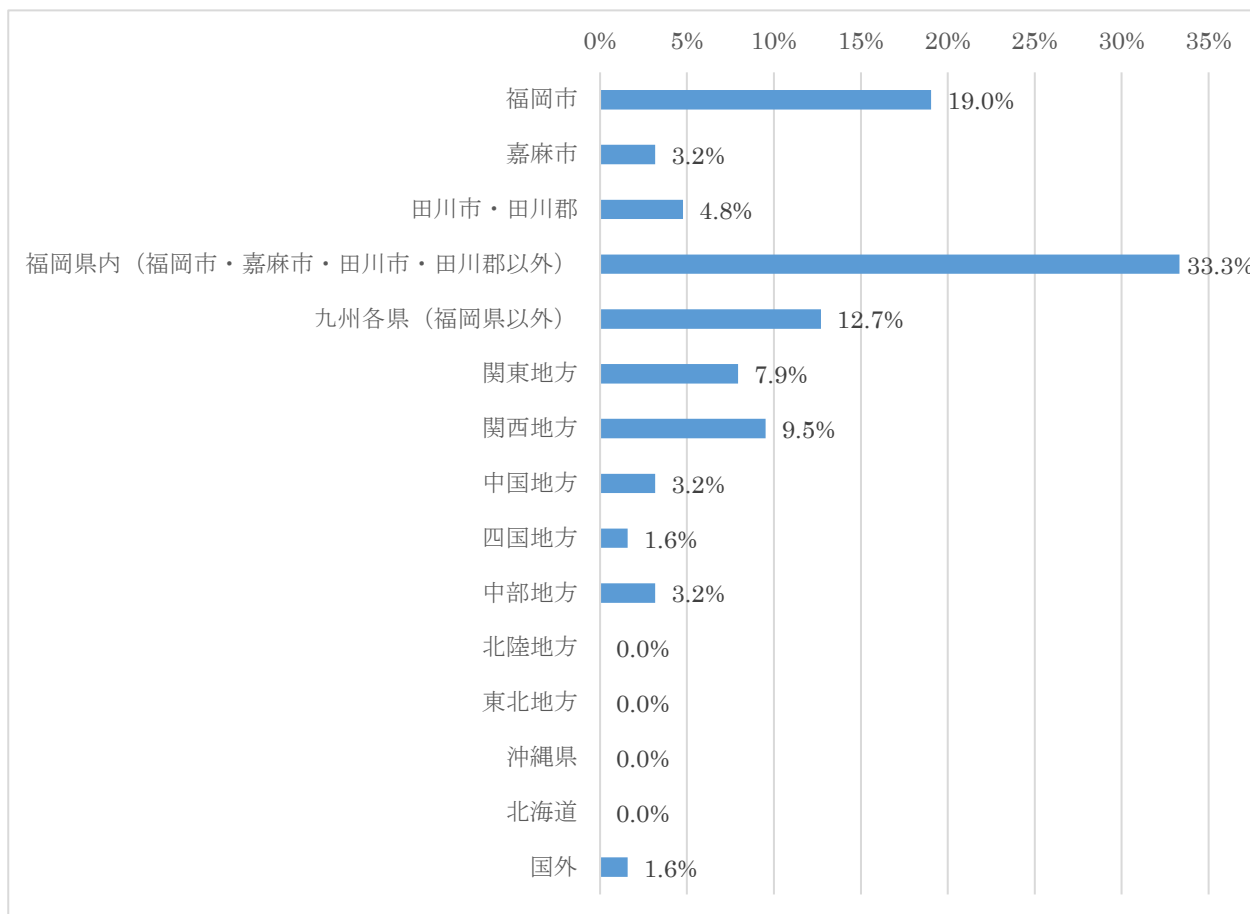
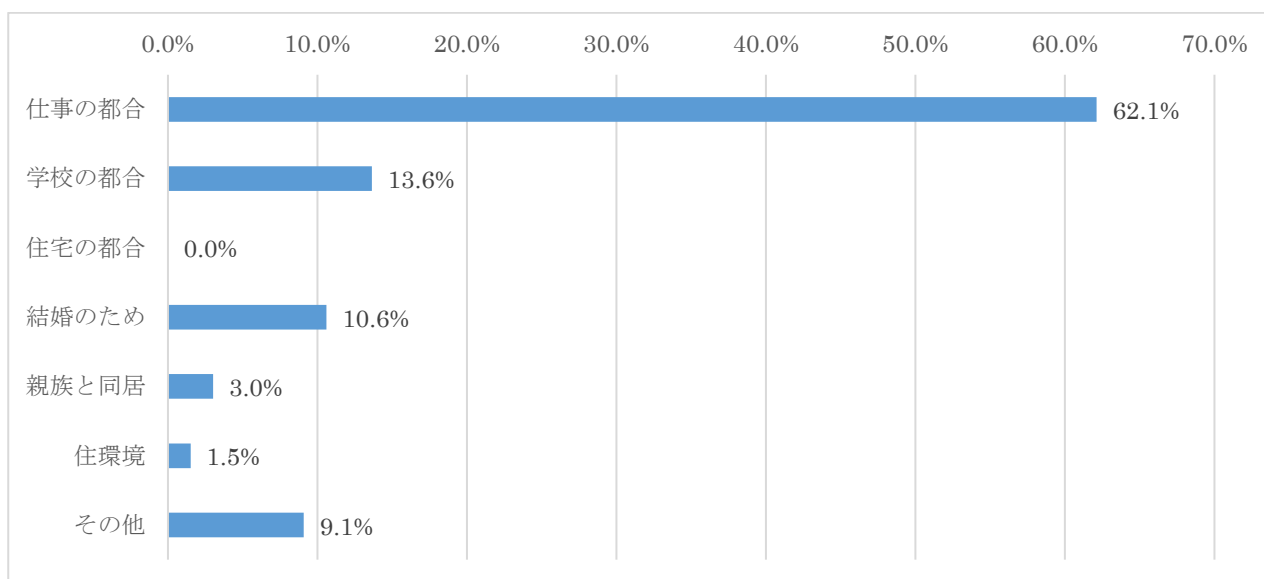


図 転入理由（単一回答）



## (5) 高校、専門学校、大学等卒業後の地元就職率の動向や進路希望の調査

### ①高校生アンケート調査

- ・進路は、「進学」が83.6%を占める。
- ・就職地・進学地は、「県内他市町村」が47.5%と最も高い。「飯塚市」は26.0%となっている。
- ・就職地・進学地を性別で見ると、男性は女性に比べて「飯塚市」と「県外」が高く、女性は男性に比べて「県内他市町村」が高い。

図 進路（単一回答）

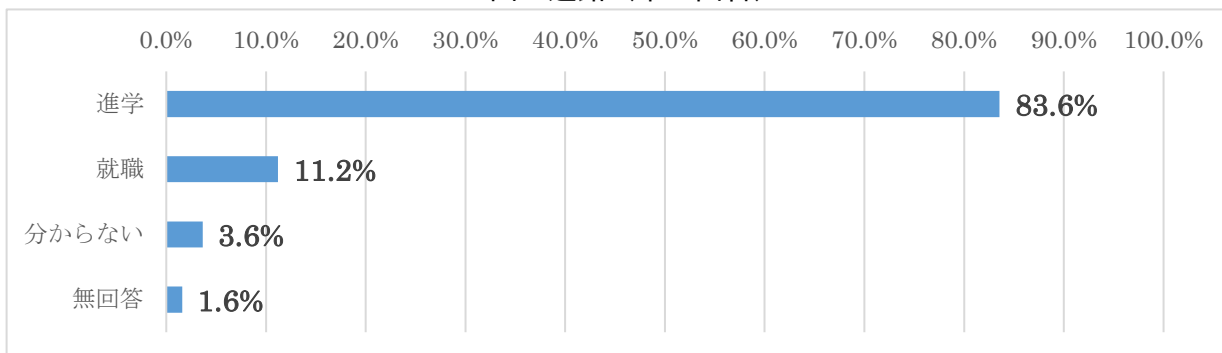
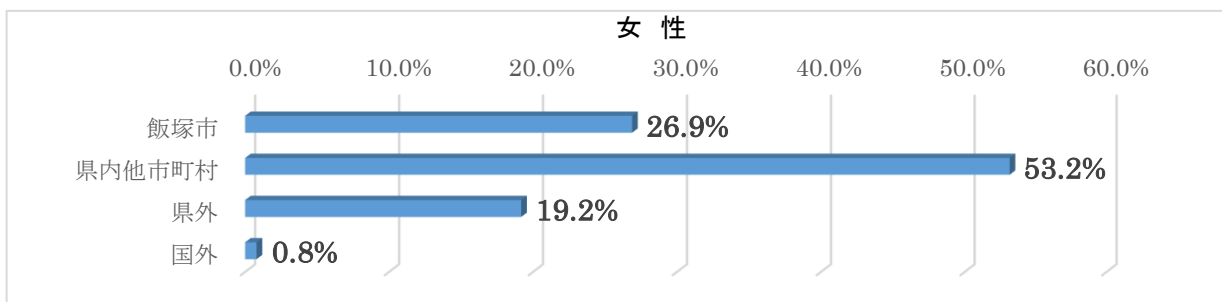
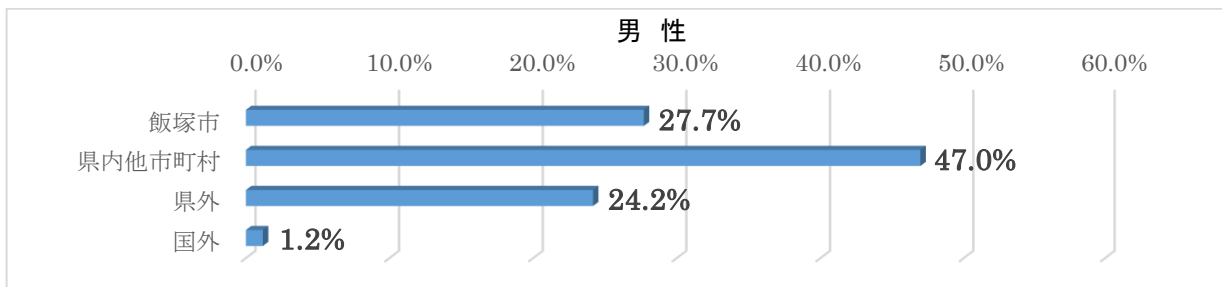
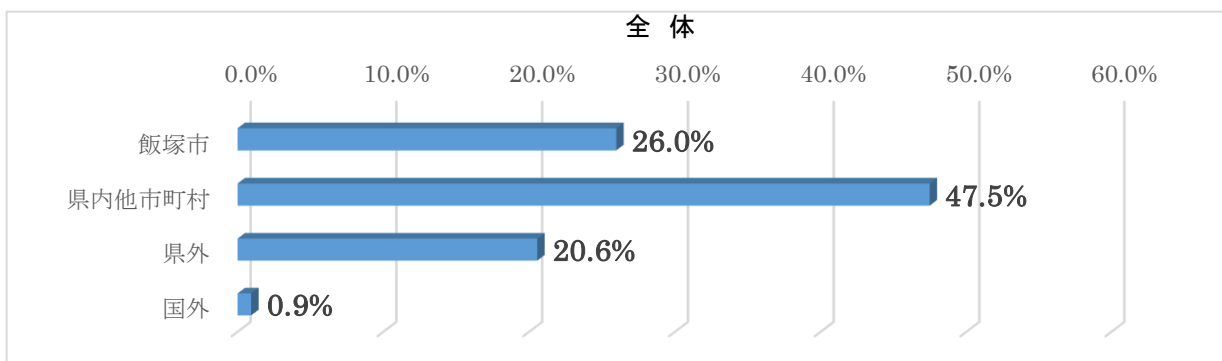
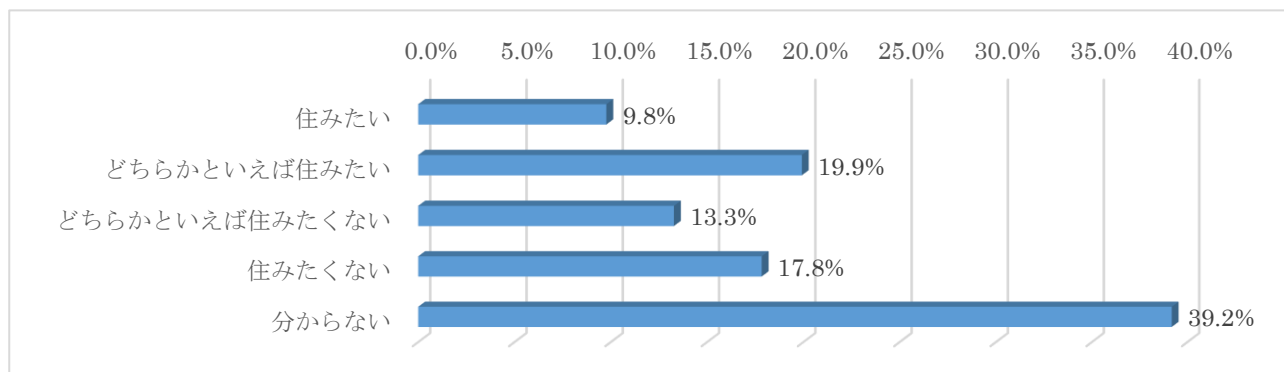


図 就職地・進学地（単一回答）



- ・飯塚市への居留意向は、「分からない」が36.2%で最も高い。
- ・「住みたい（「住みたい」「どちらかといえば住みたい」の合計）」は42.0%、「住みたくない（「どちらかといえば住みたくない」と「住みたくない」の合計）」は21.8%となっている。

図 飯塚市への居留意向（単一回答）



## ②大学生アンケート

- ・希望の就職地は「県内他市町村」が42.5%、「県外」が40.2%、「飯塚市」は15.4%となっている。
- ・希望の就職地を性別で見ると、男性は「県外」が最も高く、女性は「県内他市町村」が最も高い。
- ・飯塚市への居住意向は「住みたくない」が36.9%で最も高く、「どちらかといえば住みたくない」を合わせると6割を超える。「住みたい」「どちらかといえば住みたい」は合わせて16.8%となっている。

図 希望の就職地（単一回答）

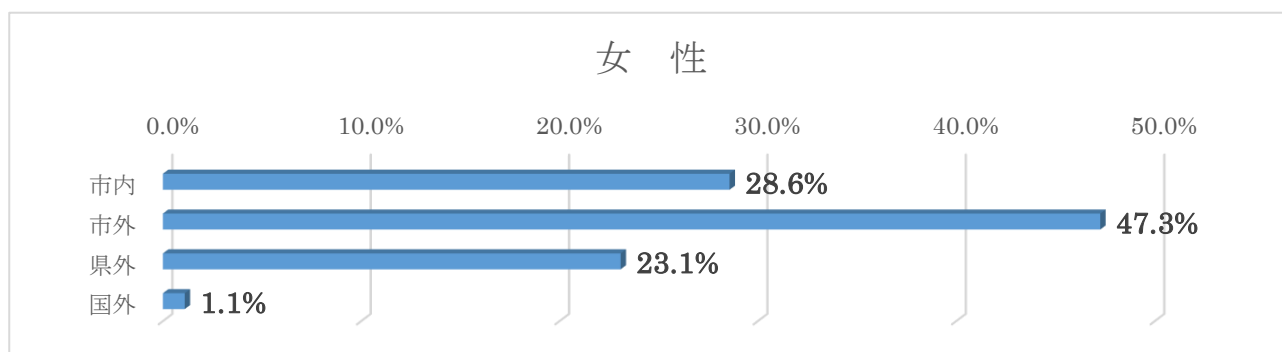
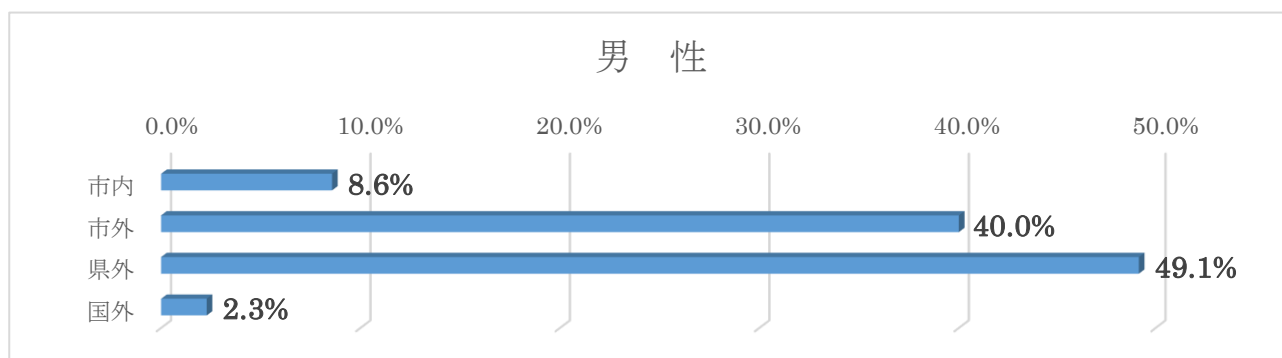
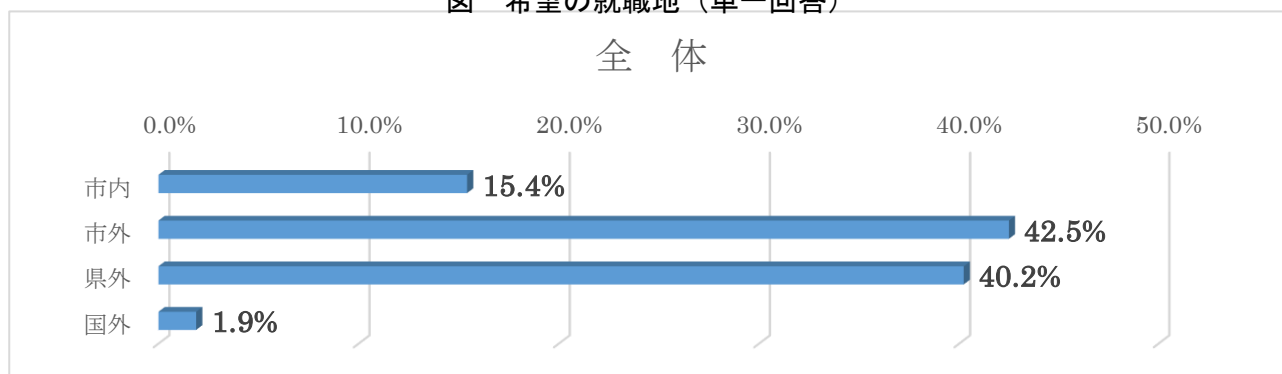
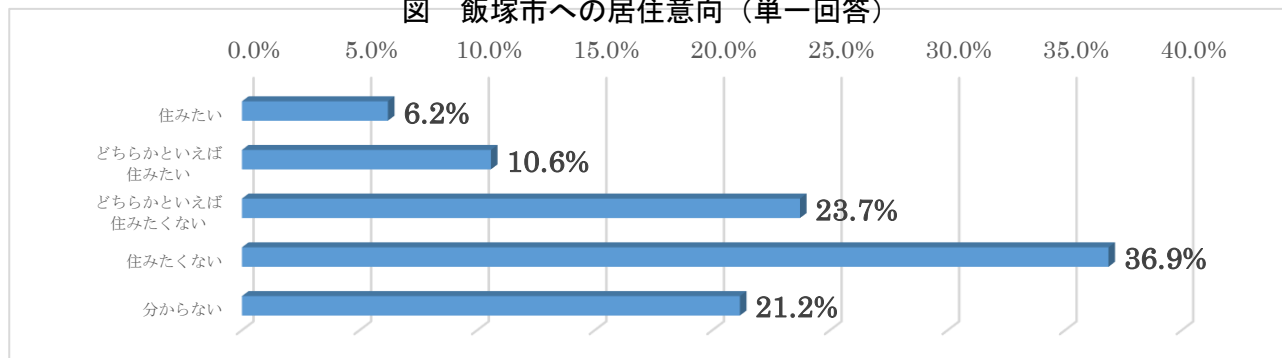


図 飯塚市への居住意向（単一回答）



## (6) 調査結果の分析

方面・男女・年齢階級別転入超過数グラフ及び(2)～(5)までの調査結果を踏まえ、人口減少対策に関する分析を以下に整理します。

### ①人口減少対策全般：

#### 「働く場の確保」と「結婚や子育て支援」の取り組みが求められる

- ・人口減少対策として、「働く場の確保」や「結婚や子育ての支援」が強く望まれている。特に、10代・20代の女性及び30代の世代においては「結婚や子育ての支援」を望む割合が高く、「結婚や子育て支援」の取り組みが求められる。
- ・本市の取り組みの今後への期待「重要度」についても、「子どもを産み育てやすい子育てのまちづくり」が最も高く、「子育て支援」の取り組みが求められる。
- ・現戦略策定時と比較すると、「働く場の確保」の割合が多少減少し、「教育環境の充実」や「道路や公共交通などの生活基盤の充実」の取り組みについての割合が高くなっている。

### ②結婚・出産・子育てについて：

#### 金銭面の負担軽減と安定した雇用の確保や結婚に対する関心を高めるための取り組みが求められる

- ・子どもについて、理想とする子どもの人数に対して最終的に予定している子どもの人数が少なく、その背景として「お金の問題」が一因となっていることから、子どもを多く産み育てられる環境づくりが必要で、金銭面の負担軽減と安定した雇用の確保に向けた取り組みが求められる。
- ・併せて、妊娠・出産に対する健康面での不安が高いことから、高齢出産に対する医療体制や、晩婚化を解消するための出会いの場づくりの取り組みや、結婚に対する関心を高めるための取り組みが求められる。
- ・現戦略策定時と比較すると、理想とする子どもの人数及び最終的に予定している子どもの人数ともに、0または1人と回答した割合が減少し、2人以上と回答した割合が増加している。

### ③移住について：

#### 福岡都市圏への転出が顕著であり、同圏域からの転入が少ない現状への対策が必要である。

- ・「方面・男女・年齢階級別転入超過数グラフ」より20代に福岡都市圏へ転出したのち、30代以降においても本市へ戻ってくる人数は少ない。また、転入理由に「住宅の都合」を選択した方がおらず、福岡都市圏へ1時間程度の通勤圏である立地と福岡都市圏との土地の価格の比較等を用いて、転入を促進する必要がある。
- また、「仕事の都合」に伴う流出に関しては、転職や新規就業等に伴う過度な転出を防ぐことが求められる。さらに、住環境のさらなる魅力向上による本市への定住促進も考えられる。

#### ④若い世代の定住について：

##### まちの魅力向上や大学生のまちに対する愛着の醸成が求められる

- ・本市に「住みたい」割合は、高校生アンケート調査では 29.7%、大学生アンケートでは 16.8%であり、「住みたくない」割合は、高校生アンケート調査では 31.1%、大学生アンケートでは 60.6%となっている。
- ・大学生は市外出身者が約 8 割を占めており、地域に対する愛着が希薄であること、また、就職の問題や市外の他地域に対する憧れなどがあるものと考えられる。
- ・人口移動分析でも示したように、本市の人口移動は、市内への大学進学に伴い転入超過になることが最大の強みであり、大学生に「飯塚市に住みたい」と思ってもらえるようなまちの魅力向上や、まちに対する愛着の醸成が求められる。
- ・現戦略策定時と比較すると、高校生の「住みたい」割合と「住みたくない」割合が逆転し、高校生においても飯塚市への居住意向が低下している。シビックプライドを醸成、促進する取組みが求められる。